



<p>・当否を判断しなければならぬ論点について自分の考えをまとめ、クラス全体で討議した後、挙手による評決を行う。</p> <p>45分</p>	<p>(3) (論点をしっかりとふまえさせながら)</p> <p>Q: パメラとギャビーの行動は許される事でしょうか? 意見を述べてください。</p> <p>Q: ではクラス全体で評決をとります。</p>	<p>&lt;評価の方法&gt; 発言とその内容</p> <p style="text-align: right;">【技】</p>
<p>・自分の感想を書く</p> <p>50分</p>	<p>改めて生殖医療に関する自分の考えを、論拠を明確にしながらレポートにまとめ、提出する。</p>	<p>&lt;評価の方法&gt; レポート提出で確認</p> <p style="text-align: right;">【思】</p>

次回、VTR「クローズアップ現代『代理出産はゆるされるか』」を視聴しつつ、生殖医療についての倫理的なまとめを行う。

注1) 生徒は前時(第1時間目)に次のVTRを視聴している。

ドキュメント・地球時間『生殖医療はどこまで認められるか』  
(NHK教育テレビ・2001年6月22日放映)

- ・この中に登場するおもな人々は、次の通りである。
  - ・パメラ(19歳の息子を事故で亡くし、悲嘆に暮れている)
    - .....死亡直後の息子から採取した精子を冷凍保存し、孫の誕生を願っている。そのため、卵子提供者と代理母を現在探している。
  - ・ギャビー(夫を病気で亡くした)
    - .....夫の遺体から採取した精子と自分の卵子を体外受精し、自分が出産した。夫の両親も、夫の妹も子どもの誕生を喜んでおり、家族を亡くした痛みが癒されると言っている。
  - ・ジャネット=ベリー(ネバタ州地方裁判所判事)
    - .....生殖医療に対する法整備が十分ではないという理由で、パメラの希望に強い危惧を抱いている。特に生まれてくる子どもにとっての母親、養育義務者の混乱を指摘している。
  - ・ロスマン(カリフォルニア州で精子バンクを経営する)
    - .....精子を提供することで女性の母性本能が満足されるのなら、受精の事情は問題にならないと考えている。
- ・時間は約40分であるが、インタビュー中心に構成されているので、途中でどうしても退屈する生徒が出てくる。

#### < 指導上のポイント、考察 >

- (1) 「生徒自身が課題をもって活動する」ことをさらに進めるならば、生殖医療の現実についてインターネットや新聞記事、書籍を利用してグループ単位で調べさせる方法も考えられる。またそれらを教師が紹介し、その内容をまとめさせることもよいと思う。また、私自身が必要に駆られて行ったことであるが、関連教科・科目(生物、保健、家庭科など)の教員に、各々の教科・科目での学習内容を確認し、配慮することも効果的であり、また必要かと思う。
- (2) 生徒の実態や状況に応じて教師がその概要を説明したり資料プリントを配布したりする必要もある。また、ロールプレイを導入して提示する方法も考えられる。
- (3) 今回のVTRが「死者からの精子採取による人工授精の当否」について問題を提起するものであったためか、「死者」という言葉への意識が強く働いて人工授精そのものを否定するクラスもあった。授業を行うに当たっては、条件を単純化するために、「不妊に悩む夫婦の人工授精、代理母出産」というテーマを設定した方が生徒にとって理解しやすいかもしれない。
- (4) まとめをし、評決を行う必要があるかは賛否両論ある。私自身としては「課題を提示しただけ」というより、結論を出しある程度の方向性を与えた方が、達成感を得られ、さらにそれを批判・検討して次へのステップにできると考える。ただし、授業を実施してみないと生徒の考えがわからないため、「まとめ」をその場で考えなくてはならないのが苦しい。

#### < 単元の指導計画(全3時間) >

- 1時間目 生殖医療の現状を知る(VTR視聴)
- 2時間目 生殖医療倫理委員会 年組部会 (本時)
- 3時間目 生殖医療に関する倫理的なまとめ